

編集後記

松本歯学の編集主任を引き受けるにあたって、一番心配したことは投稿原稿が十分に集まるかどうかということでした。第11巻は3号まであったとはいえ、1・2号は合併号ですから、実質的には本巻から年3回発行ということとなります。もし十分な量の原稿が集まらなかったらどうしようか、そのときはどのような手を打てば良いだろうかなどと、私なりにいろいろと考えておりましたが、ご覧のように、本号は原著、臨床合わせて14篇という十分な数の論文が集まりました。ご投稿下さった先生方に感謝すると共に、2号以降の原稿につきましても、皆様方の今後一層の御努力をお願い申し上げます。

前号の編集後記に述べましたように、本号の総説には小児歯科学教室の今西孝博教授を予定していたのですが、非常にお忙しくて原稿が間に合いませんでした。残念ながら先生の総説は後日掲載させて頂くことにします。

本号には業績目録が掲載されています。従来は、年度すなわち4月始めから3月末までの業績目録でしたが、本巻からは1号の原稿締切りが2月末となったため、1号には年度の業績目録を掲載することが出来なくなりました。そこで、本巻からは年、すなわち1月から12月までの業績目録に変えることに致しました。御承知おき下さい。

まだこのようなことを書くのは早過ぎるように思いますが、投稿原稿の量が多くなり頁数が増えて学会会計を圧迫するようになると、値上げ、例えば現在10頁まで無料である掲載料を7頁までにするとか、10頁を越えたときの超過料を現行の1頁当り5千円から1万円に値上げするとかしなければならないかもしれません。(現在、1頁当り約1万3千円かかっています。)またさらに投稿原稿が増せば、論文を審査して掲載数を制限するような時期も来るかもしれません。編集子としては、早くこのような時期が来れば良いなと考えております。

(野村 浩道)

松 本 歯 学 第12巻 第1号 (非売品)

1986年4月25日 印刷 1986年4月30日 発行

編集兼発行者 加 藤 倉 三

発 行 所 松本歯科大学学会

399-07 塩尻市広丘郷原1780 電話 0263-52-3100

印 刷 所 電算印刷株式会社

390 松本市筑摩3270 電話 0263-25-4329
